



2019年 日中韓一高層建築フォーラム

2019 China-Japan-Korea Tall Building Forum



テーマ: 『温故知新』 **Visiting Old, Learn New**

日時: 2019年7月5日(金) 9:30~18:30

場所: 東大寺総合文化センター (小ホール)

<http://culturecenter.todaiji.or.jp/index.html>

(奈良市水門町 100 番地、

JR 大和路線・近鉄奈良線「奈良駅」から

市内循環バス「大仏殿春日大社前」下車徒歩 5 分)



開催主旨

本フォーラムは、「CTBUH (Council on Tall Buildings and Urban Habitat) : 高層ビル・都市居住協議会」のアジアにおける活動の一環として、中国、韓国、日本の学識経験者、構造エンジニアが中心に参加している高層建築に関する国際会議です。2014 年に上海で開始されて以来、2015 年 (ソウル)、2016 年 (東京)、2017 年 (重慶)、2018 年 (釜山) と、3カ国の持ち回りで毎年開催されており、今年で6回目を数えます。

今回のフォーラムでは、中国からはコンクリート充填鋼管構造、連結超高層、北京に昨年完成した「China Zun Tower」(528m)の先端施工技術等について、韓国からは制振デバイスを用いたレトロフィット、超高層メガブレース架構、合成コアウォールシステム等について、興味深い講演が予定されています。また、日本からはそれぞれに特徴のある制振技術を有する3件の超高層建築の設計・施工事例について発表が行われます。

各講演はいずれも超高層建築の最新技術に関するものであり、特に中国、韓国のエンジニア、研究者から直接説明を聞ける貴重な機会となりますので、多くの方にご参加いただけることを期待しています。

プログラム

- 9:00- 9:30 : 受付
- 9:30- 9:45 : 開会挨拶 (各国代表)
- 9:45-11:30 : セッション 1 (講演 3 題 + discussion)
- 14:00-15:45 : セッション 2 (講演 3 題 + discussion)
- 16:30-18:15 : セッション 3 (講演 3 題 + discussion)
- 18:15-18:30 : 閉会挨拶 (日本代表)

定員: 100 名

使用言語: 英語

参加費: **8,000 円 (消費税、資料代等込み)**

参加登録: 日本鋼構造協会ウェブサイトの
「日中韓-高層建築フォーラム」
専用サイトより、お申し込み
下さい。 専用サイト QR コード⇒

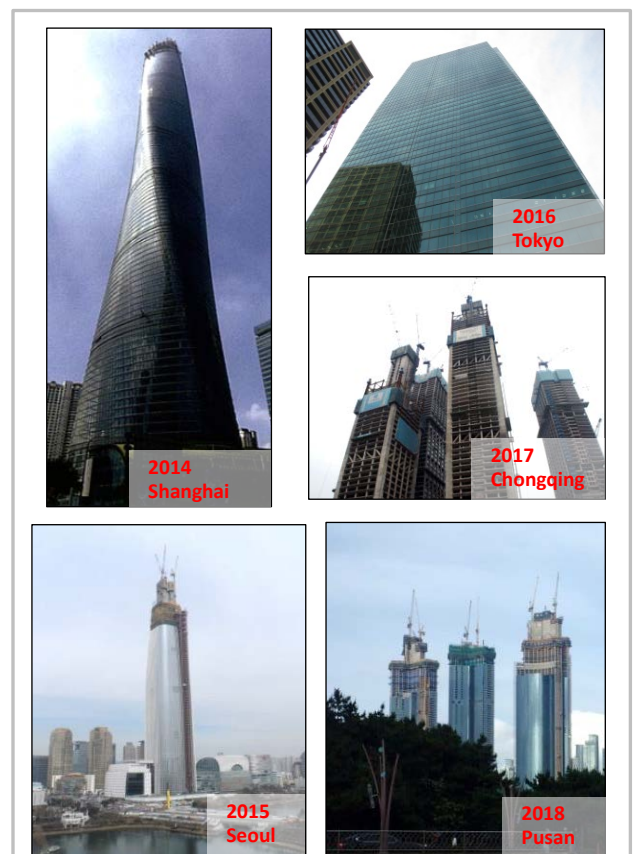


問合せ先: 日本鋼構造協会「日中韓-高層建築フォーラム」係
Tel/03-3516-2151

e-Mail/JCK-CTBUH-Forum2019@jssc.or.jp

主催: 日本鋼構造協会 国際委員会「CTBUH 対応 WG」

後援: 日本建築学会、日本建築構造技術者協会、
日本免震構造協会、日本風工学会、A-Forum



詳細プログラム（予定）

9:00 – 9:30	受付
9:30 – 9:45	開会挨拶（日本幹事、中国代表、韓国代表）
9:45 – 11:30	<p>【セッション 1】（30分×3題＋15分 discussion）</p> <p>(1-2) “Application of steel-tubed concrete structures in high-rise buildings” (Xu-hong Zhou, Professor, Chongqing University)</p> <p>(1-2) “Development of energy dissipation devices for seismic retrofit of building structures” (Jinkoo Kim, Professor, Sungkyunkwan University)</p> <p>(1-3) “Structural Design of Vibration Controlled Tall Building with Overhang Structure” (Yoji Ishibashi, Chief Engineer, Mitsubishi Jisho Sekkei Inc.)</p>
11:30–12:30	昼休み／昼食
12:30–14:00	東大寺大仏殿 見学ツアー
14:00–15:45	<p>【セッション 2】（30分×3題＋15分 discussion）</p> <p>(2-1) “The super high-rise building of connected towers—the structural solution to the development of the sky city” (Lian-jin Bao, Chief Engineer, East China Architectural Design & Research Institute)</p> <p>(2-2) “Structural Design and Construction of Mega Braced Frame system for Tall Buildings” (Kwang Ryang Chung, President, Dongyang Structural Engineers Group Co., LTD.)</p> <p>(2-3) “Structural Design and Construction of Hibiya Mitsui Tower (tentative) ” (Takashi Kato, Chief Engineer, Kajima Corporation)</p>
15:45–16:30	休憩／コーヒープレイク
16:30–18:15	<p>【セッション 3】（30分×3題＋15分 discussion）</p> <p>(3-1) “Key innovation technology of construction in China Zun tower” (Li-shan Xu, Vice-general manager, Executive Chief Engineer of China Zun Project China Construction Third Engineering Bureau Co., Ltd.)</p> <p>(3-2) “Composite Core Wall System for Tall Building using Corner Steel Plate Columns” (Hong-Gun Park, Professor, Seoul National University)</p> <p>(3-3) “Structural Design of High-Rise Concrete Condominium with Wall Dampers for Vibration Control” (Takumi Tsushi, Senior Manager, Takenaka Corporation)</p>
18:15–18:30	記念品贈呈、閉会挨拶（日本代表） 全体写真撮影